

## 令和8年度都立大山高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の指導の充実</li> <li>・「話すこと・聞くこと」の指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会において、年間指導計画の共有、及び、指導の重点事項を確認</li> <li>・「話し合うこと」の指導に関する言語活動について研修を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字検定、日本語検定の実施</li> <li>・ビプリオバトル大会への参加</li> </ul>
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的内容の徹底を図る</li> <li>・社会的事象の意義を実感させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて課題を設定する。</li> <li>・複数の教員で担当している科目については、連絡を密にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業期間に、大学進学希望者を対象とする講習を開設する。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計算</li> <li>・数学的な見方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計算の定着のための寺子屋(週1回)の実施</li> <li>・学びの有用感を得る教材開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学受験を見据えた問題に挑戦する発展数学の実施</li> <li>・問題解決の過程を振り返り考察を深める授業を実施</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本事項の徹底を図る</li> <li>・科学の楽しさを伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて課題を設定する。</li> <li>・実験の充実や、身近な応用例の紹介を意識した授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習や個別対応を充実させ、苦手克服から大学進学対策まで広く対応する。</li> </ul>
保健体育	生涯にわたりスポーツを楽しむ資質や能力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共習の授業の中で性別や体格、能力の差を超えて運動を楽しむ。</li> <li>・選択制の授業を導入して意欲的に授業に取り組めるようにする。</li> <li>・学習カードやICTを活用して、自身の活動を客観的に振り返り、次回以降の授業に取り組む工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共習で行う際のゲームのルールづくりを行う。</li> <li>・3年間を通して系統的に発展できるような種目選択の組み合わせを受講できるよう、生徒に指導する。</li> <li>・学習カードや一人1台端末を自宅学習に活用できるよう、指導する。</li> </ul>
芸術	特に「学びに向かう力、人間性等」を育む指導を行う	芸術に必要な能力である「連想する力」を基礎から学び、自己のイメージと関連付けて作品や演奏で表現するとともに、言葉で伝える力を育む。	観察する力、予測する力、操作する力を芸術を通して学び、予測不可能な未来において、持続可能な社会の担い手となることのできる人材を育てる。
外国語	教科として、組織的に生徒の英語力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において、週一回程度、英単語テストを行い、語彙力の向上に努める。</li> <li>・担当者間での会議をこまめに行い、授業の進捗、内容、評価方法を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実用英語技能検定等、外部の試験の受験を促し、必要に応じて個別指導を行う。</li> <li>・希望者対象に、7時間目の発展英語演習で、応用力の養成を目指した授業を実施する。</li> <li>・長期休業中の講習を計画し、各学力層の生徒の英語力向上に努める。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的知識の習得</li> <li>・裁縫の基礎的技術の習得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な題材を例にあげながら、日常の生活と結びつけた授業を展開する。</li> <li>・映像の活用や達成感が得られやすい教材を選定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクトにより、学びの発展を図る。</li> <li>・一斉指導に加え、個に応じた指導の充実を図る。</li> </ul>
情報	「課題解決」につなげる実習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書選定時に、課題解決型実習を多く掲載しているものを選定する。</li> <li>・補助教材を活用し、社会課題の解決を題材とした教材を用いて指導する。</li> <li>・情報Ⅰ各単元の最終課題として、グループ(協働学習)による探究的な実習を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報Ⅱで民間のプログラミングコンテスト(ハッカソン)に参加する。</li> <li>・プログラミングやデータ活用分野で活躍する専門家の研究について学び、情報科で学習した知識や技術の、実社会での活用について学習する。</li> </ul>